

## 令和元年度第2回福岡市スポーツ推進審議会 議事録

<開催日時> 令和元年8月30日(金) 13:00~14:35

<開催場所> アクロス福岡 606会議室

<出席委員> 15名(欠席1名)

上和田会長, 緒方副会長, 山川委員, 川口委員, 副田委員, 西村委員,  
兄井委員, 藤井委員, 早淵委員, 小森委員, 大谷委員, 案浦委員,  
小手川委員, 齋藤委員, 鶴委員

<説明のため出席した事務局職員> 5名

福田スポーツ推進部長, 鷲頭スポーツ推進課長, 宮本スポーツ施設課長  
ほか2名

<議題>

(1)「福岡市スポーツ推進計画(仮称)」の策定に向けた課題整理等について

<協議要旨>

○ 議題1:「福岡市スポーツ推進計画(仮称)」の策定に向けた課題整理等について

(事務局)

- ・資料1に基づき,「福岡市スポーツ推進計画(仮称)」の策定に向けた課題整理等について説明

(委員)

- ・「支える」の課題の「スポーツに関する情報を,必要とする人へ届けることが必要」という点について,市政だより等では情報発信していると思うが,最近公立体育館での競技の初心者教室が減っていると感じる。今後,もっと多くの教室を開いていただき,より多くの市民にスポーツに興味を持ってもらい,広がっていったら良いと思う。

(委員)

- ・若い世代のスポーツ実施率が低い点について前回も申し上げたが,参考2の資料9ページにもあるように,20代から40代の実施率が低い。スポーツをする人はする,しない人はしない,家すら出ない人もおり,二極化している。

- ・このような状況を解決するため、本審議会として、何らかのアプローチを考えることが必要ではないか。
- ・たとえば、成人式の日、家を出て体を動かすこと、人と集うことなどを成人の誓いの中に入れて、成人式の日、ヤフオクドームを借りて、様々な運動のブースを作って、ペアでウォーキングやバドミントン、ドッジボールを楽しんでもらうなど運動をしながら人と出会えるようなイベントを開催したりするなど、若い人向けのアプローチができれば良い。
- ・特に今は、スマホやテレビなど、自分の世界に閉じこもり、人と関わる機会が減っているため、そのようなアプローチをぜひ考えていけたらと思う。

(委員)

- ・「する」スポーツを今後どうやっていくか指針が必要。先程ご意見があったように、仲間が集い、みんなでスポーツを実施していくところに軸足を置くのか、それとも、ウォーキングや体操など、あまり人と関わらなくても、自分が好きなところでスポーツを実施していくところを重視するのか。どちらにするかで対応が変わってくる。
- ・現在の国の第2期スポーツ基本計画においては、第1期基本計画のときと比べると、総合型地域スポーツクラブへの言及が減り、クラブでスポーツを実施していくという部分が弱まっている。日本の現状を考えると、クラブで仲間と実施するということに軸足を置きすぎるのはどうかと思う一方で、それを無くしてしまうと、そもそもスポーツの意義を保証したり、コミュニティを維持したりできるのかとも思う。今後、福岡市として、どのような方向性を定めるかは大事な要素だと思う。
- ・福岡市は総合型地域スポーツクラブよりも、公民館などを中心として地域のスポーツを推進していると以前聞いたが、体育館や総合型地域スポーツクラブ、民間スポーツクラブなど組織・集団で行うスポーツのあり方を含め、整理する必要がある。

(事務局)

- ・参考2の資料8ページのスポーツ実施率について、ここでの「スポーツ」には日常で簡単にできる運動やウォーキングなども含んでいる。
- ・新たな計画における「スポーツ」の定義とその軸足について、委員のご意見を踏まえ、検討していきたい。

(委員)

- ・体操やウォーキングは、年配の方も気軽に取り組めるスポーツだと思うが、先程も意見があったが、若い世代に体操やウォーキングをしましょうで良いのか、あるいは、ボウリングやクライミング、フットサルなど種目も勧めていくほう

が良いのか、世代に応じた対策も考えていくことが必要だと思う。

(事務局)

- ・「スポーツ」の定義については、新しい計画を考えるうえで重要な点だと思うので、一言申し上げたい。
- ・スポーツには様々な効用があり、することが楽しいのはもちろん、自己実現、健康増進、青少年健全育成、地域のコミュニティ形成や仲間づくりなど多岐にわたる。行政全体で見ると、スポーツを切り口とした様々な行政課題の解決に活用できると思うので、目的に応じてスポーツというコンテンツを活用していくことが重要である。その過程においては、世代やレベルなどに応じたそれぞれのニーズを把握し、気軽に身近な場所で快適にスポーツができる場や機会を提供するのが行政の役目であると考えます。
- ・新しい計画を策定する中では、特に力を入れる点も考えていきたい。各委員の立場や現場の意見などをこの場に出していただき、実態を把握していきたいので、引き続きよろしくお願ひしたい。

(委員)

- ・スポーツの目的は、市民間の健康的なコミュニケーションだと思う。その手段として、今は個々のニーズも多様化しているので、公民館を中心とした地域を原点として、市民のニーズを把握し、それを市が集約していく形が良いと思う。
- ・上から何かを一律にさせるということではなく、地域という小さな輪から大きな輪へ広げていくことが大事だと考える。

(委員)

- ・そのとおりだと思うが、問題はニーズの把握方法で、地域のニーズは公民館や小学校等を通じてできるが、若い世代のニーズをどう把握するか。やはり、この点についても世代などに応じた方法を検討する必要がある。

(委員)

- ・最近、食事や運動、休養など社員の健康に力を入れる「健康経営」を進める会社が増えている。今後、会社間での交流が増えると良い。地域の公民館や商工会議所等でのアフター5、アフター6の集いなど、特定の会社だけで進めるのではなく、社会全体で場を作れたら、みんなで楽しく進められるのではないかと。スポーツの出会いの場はとても大事。ぜひ検討してほしい。

(委員)

- ・福岡市では、147小学校区に公民館があり、市民にとって身近な場所である。資料にあるように、平均寿命と健康寿命の差が大きいという点に注目しており、

高齢者に来てもらい、体を動かしてもらうことがスポーツの役目だと思う。今後も高齢者に目を向けて、公民館として取り組んでいきたい。

(委員)

- ・質問だが、公民館で若い世代をひきつける活動は行っているか。もし無ければ、今後どのような展開が考えられるか教えてほしい。

(委員)

- ・若い世代が来館しないことは公民館としても悩みであり、何とか足を向けてもらえないか考えているところではある。また、公民館は場所も広くないので、大きなスポーツはできないが、公民館でできるスポーツを考えていけたらと思う。

(委員)

- ・難しいかもしれないが、たとえば、公民館でフットサルができるとなれば、若い世代は集まってくれそうか。

(委員)

- ・小学校の体育館を利用したソフトバレー、バドミントン、ミニバスケットなどを行っているサークルはある。公民館は少し狭いので、フットサルは難しいかもしれないが、卓球やニュースポーツなどはできると思う。

(委員)

- ・公民館主催でなくても、公民館がコーディネートを行い、どこかの団体などに実施してもらおうという方法もあると思うが、どうか。

(委員)

- ・公民館としても、そのようなコーディネート役ができるよう検討を進めているところで、実際に、ラグビー協会の協力で、タグラグビーを小学校で行ったことがある。公民館主催で始めて、途中から青少年育成連合会が引き継いだという事例である。

(委員)

- ・今後、この機会にぜひ検討を進めていただければと思う。

(委員)

- ・私の校区の公民館では、今年から親子を対象にしたニュースポーツ体験会を年3回実施することとしている。10月に第1回を行う予定で、種目はラダーゲッ

ターを実施する。このきっかけは、区でスポーツフェスタを毎年実施しているが、その中で取り組んだスポーツを紹介できないかとの意見が出たこと。

(委員)

- ・対象者は小学生とその保護者だけか。青年層も参加して良いのか。

(委員)

- ・案内は校区全体に行い、町内で何人集めてくださいといった依頼をするので、小学生だけでなく、青年層も来ていただける。

(委員)

- ・先程からのお話で、地域に根差して活動されていることはわかったが、私の場合は外から転入して来て、地域との関わりも無いため、マンションの貼り紙等で地域の情報を見る程度である。若者はそのような案内すら見ないのではないか。仮に情報が届いても、スポーツに意識の高い人でないと反応しないだろうし、意識の高い人は既に個人的にサークルに参加したりしているはず。
- ・福岡市は外からの転入者も多いため、広報を頑張っても届かない、そもそも情報を見ていないことが多く、努力が報われない可能性がある。費用対効果的にも厳しいのではないか。若者向けの別のアプローチを考えるべきではないか。

(委員)

- ・まさにそのとおりで、いかに情報発信を効果的に行うかが重要で、資料1の基本施策例の1つにもあるが、SNS等を活用した情報発信も含めて、今後、その方法について意見交換していけたらと思う。

(事務局)

- ・財政状況が厳しい中でいかに市民のスポーツに対する満足度を高めていくか日頃から悩んでいるが、できるだけ今ある資産を活用することと、皆さんと一緒になって取り組むというところが今後のポイントになると思う。
- ・公民館なども1つの資産であるし、学校や民間施設、地域の人材、そのような方々と一緒になってやっていけないか。実際にアクションしてみると、情報や人の動きなども見えてくるかもしれない。SNS等で安く一斉に発信するという部分も必要だし、アナログなつながりで人から人へ伝播していくというのも大事にしたい。

(委員)

- ・中学校の部活動の入部率の推移について情報提供させていただくと、平成14年の福岡県の数字で言うと、男女で56.19%。その後も、男子60%台、女子40%

台、男女で50%台と、今年度までほぼ横ばいである。

- ・男女の入部率の差は、男子がたくさん入る野球部とサッカー部の影響が大きい。女子は、吹奏楽、美術、放送部などの文化部の比率が大きい。
- ・資料にある「スポーツが嫌いな女子の数を減らしていく必要がある」という課題についてであるが、運動部以外に入っている女子は、たとえば単純にスポーツより吹奏楽が好きということもあり、アンケートの回答が実態を表しているかどうか分からない部分がある。
- ・要は、中学校においては、男女ともに運動部に入る割合は変わっていないということが現状と言える。
- ・国において、部活動ガイドラインが作られ、福岡市でもしっかりと守られているが、今後、部活動の入部率等にどのような影響が出てくるか注目したい。

(委員)

- ・今お話があったとおり、依然として女子のスポーツ活動の度合いが少ないということは事実としてあるので、今後の検討課題であると言える。

(委員)

- ・以前、広島に1年間いた。広島に行くまでは野球を見たこともなかったが、球場が近いので、職場の周りの人が球場へ行ったり、球場の歓声が聞こえたりして行きたくなる。
- ・初めて球場に行ったとき、ホームランが出ると、ウェーブが起こる。一緒になってウェーブをすると、楽しくて、ファンになった。近くに仕事終わりにふつと行ける雰囲気は大事。
- ・ホークスもアビスパもスタジアムが遠く、福岡市では、近くにふらっと行けるところが無い。仕事終わりに、明るく、歓声があり、遊びに行ける、そのようなアフター5をスポーツで楽しめる場があると良い。

(委員)

- ・いま、企業で社員の健康管理に携わっている。スポーツの意義は、身体と精神の健康だと思う。福岡は医療費が高く、以前ワーストになったこともある。
- ・以前は、介護状態になった後にレクリエーションを取り入れていたが、今は、介護になる前の予防段階で取り入れる動きが進んでいる。
- ・メタボにならないように特定健診が進められているが、今後、そのような健康・医療関係とスポーツが連携できないか。企業では連携が進んでおり、スポーツ会社と連携して、体験チケットや割引チケットを配ったりしている。
- ・スポーツをしない人は、楽しくないし、魅力的でないから。面倒くさい、汗をかくのが嫌、きついなどもあるので、もう少し取り組みやすくすることが必要である。それから、ブランド化が大切。スポーツに関わる企業と組んで、講習

会やセミナーを行ったり、社員へ情報を提供したりしている。民間企業とタイアップして、やっていくと良い。先方の企業も社会貢献などの観点から前向きである。

- ・仕事をしている人はなかなか運動する暇が無い。今の若い世代は、少し言われるとメンタルの弱さが出る。子どもの頃に、部活動や上下関係を経験していない人ほどパワハラをする側になることがある。スポーツはコミュニケーションであり、経験していないと人の気持ちがわからない。小さい頃のスポーツの体験や楽しみを味わうことは大切である。
- ・そもそもスポーツに興味が無い人は観戦に行かない。「一生に一度」のラグビーワールドカップにしても同様だと思う。そこで、今流行っているものを把握して対策を行うと良いのではないか。たとえば、若い人の間でダンスがはやっているので、ダンス大会をやるなど。若い人は市政だよりを読まないし、公民館にも行かない。みんなで何かをする体験を提供していくことが必要である。

(委員)

- ・資料にも連携や協力といった言葉が出てくるが、企業が参入してくれる仕掛けづくりも必要かなと思う。

(委員)

- ・高齢者もそうであるが、障がい者についても、なかなか一人ではスポーツをしにくい。たとえば、目が不自由な方が走ろうと思っても一人では難しいので、一緒に走ってくれる人がいる。そういう人にどこで出会えるのか、どこに聞けば良いか、どう育成するかなど、パイプ役が必要。
- ・障がい者スポーツについては、教育機関など他の団体との連携が必要。北九州市では、車いすバスケの大会があるが、たくさんの小学生がボランティアで来てくれる。それは、学校や地域が一緒になって学校で車いすバスケをしているからであり、子どもたちの障がい者スポーツの理解にもつながっている。車いすに乗ってしまえば、男女関係なく、競技ができることも魅力である。
- ・飯塚市では、地域ぐるみで国際車いすテニス大会をバックアップしている。何も言わずとも、地域の方が進んで取り組んでいる。選手へのおもてなしもなされている。
- ・このように、継続して大きな大会を開催することによって、市民の意識改革になっていく。福岡市には現在、障がい者の国際大会が無いので、何か1つ実施していただけると嬉しい。

(委員)

- ・特定健診の話だが、高齢の方は、健康に対する意識が高く、受診率が高い。自分の健康が気になるからスポーツをする人が多い。若い世代は自信があるか

- ら、あまり気にしていない。競技スポーツを好きな人がやっている状況である。
- ・若い女性はスポーツクラブやヨガに行く人が多いが、子育て世代は時間も少なく、スポーツから遠ざかる。男性は、好きでサークルに属している人もいると思うが、そのような人たち以外にはなかなかスポーツの場が無い。
  - ・公園もボール遊びはできない。若い人のスポーツの場も無い。特に、夜できるところは民間のスポーツクラブくらいしかない。小学校も、土日は子どものためにあるので、若者が自分たちで何かできる場が少ない。子育て世代にとっても、福岡市は雨の日に遊べる場が少ないと思うので、検討してほしい。

(委員)

- ・世代によりスポーツの目的も違う。健康以外の目的でスポーツをする人もいる。夜間活動ができる場所を広げることは大賛成で、課題もあると思うが、ぜひ今後議論していけたらと思う。

(委員)

- ・資料の課題整理において、スポーツを「みる」の割合が少ない。次の計画期間においては、福岡市でも大きなイベントや大会が目白押しなので、もう少し内容を検討してほしい。

(事務局)

- ・今後、検討していきたい。

(委員)

- ・先程から話が出ているように、新しい計画において、どこに施策の軸足を置くかは重要。世代によって異なると思うが、若い人に対しても、スポーツはシェイプアップにつながるなど付加価値をつけて推進すれば、効果があるかもしれないし、子育て世代でも、時間があれば運動したい人はいると思う。
- ・福岡市として、市民の健康や体力に責任を持つという形で計画を作るのか、多様なスポーツをすることで生きがいに寄与するという部分に軸足を置くのか、両方必要だとは思いますが、今のうちから具体的施策と合わせて明確にしておかないと両方達成できずに終わってしまう。国は、オリンピック・パラリンピックが終われば、おそらく前者に軸足を移すはず。
- ・ちなみに、福岡県は「スポーツ立県」を掲げ、新しい計画を策定したが、国の基本計画とは少し違う作りになっている。
- ・個人的には、市民の健康・体力を維持・向上することに軸足を置くほうが、エビデンスも明確に出るのでわかりやすい。また、スポーツを楽しみながらするというところも大事で、苦しかったら長続きしない。市としての方針を施策がらみで考えてほしい。

(委員)

- ・確かに、いかに施策として実施していくかを考えながら計画することは大事である。

(委員)

- ・小学校で体育を教えるときは、運動の楽しさや魅力を子どもたちに教えるようにしている。その結果として体力がつくという考えである。
- ・その後、大人になるに連れて、運動が手段になっていくので、子どもから大人までの過程をどのようにしたらうまくスポーツとの関わりを持ち続けられるかよく考えている。
- ・参考2の資料11ページの「スポーツが好き」な割合は結構高いなと思った。体育が好きか、運動が好きか、外遊びが好きかなど、聞き方によって随分と変わってくると思うが、それらすべてを含めてスポーツを考えていくとうまくつないでいけるかなと思う。

(委員)

- ・大学で体育科教育学を研究している。ここ数十年、体育嫌いは12～15%程度で変わっていない。学習指導要領にも携わっているが、小学校で運動の楽しさや喜びを教え、継続してもらうことを目標としている。
- ・スポーツ振興計画は、教育計画ではないので、市で担うことと、教育課程で担うことは分けて考える必要があると思う。社会教育と学校教育は別であり、市として関われる部分において、何ができるかをしっかりと議論していくことが重要である。

(委員)

- ・スポーツは楽しいから行うということは、学校教育でもそれ以外でも同じであると考えているので、計画の中で一緒に施策を考えても良いと思う。

(委員)

- ・計画論と実践論はつながっているが、別問題であり、市として責任が負える範囲で計画を考えていくべきというご意見と、計画としては全体の施策をとらえて考えていくべきという2つのご意見をいただいた。
- ・計画では全体をとらえ、すべての機関が協力しながら取り組む必要があると考える。この部分は行政、この部分は別の機関というように主体を分けていけば良いと思う。いずれにしても、今後の課題として考えていけたらと思う。

(委員)

- ・ 1つ質問だが、資料1のⅡの「4 計画推進にあたっての視点」について、①と③は理解できるが、②について補足情報があれば教えてほしい。

(事務局)

- ・ ユニバーサルについては、ソフト・ハード両面から考えていくとともに、スポーツは嫌いではないが、関心が無いという方たち向けに、強制することはできないが、スポーツを始めるにあたってのハードルを少しでも下げることによって、気軽に取り組めるようになればと考え、このような表現とした。

(委員)

- ・ ここの3つの視点は、各施策を貫く横断的な柱になる。ここを見れば、どこに軸足を置いたかわかるようなものであると思うので、もう少し施策とともに検討して、この3つで良いか、今後議論させていただければと思う。
- ・ それでは、議題1について、了承ということによろしいか。

(各委員)

- ・ 了承

(委員)

- ・ 本日は、今後の検討に有用な意見をたくさんいただいたので、今後、事務局で整理していただき、次回以降の審議会につなげてほしい。
- ・ 以上で本日の議題は終了した。委員各位の円滑な会議の推進に感謝する。

○ 会議終了